

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	直方市立植木小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	1	1	1	1	8	15
児童数	37	36	55	36	34	40	5	243	

研究の概要

1. 研究主題

共に学ぶ楽しさを味わわせる授業の創造 ～人間関係を豊かにする自己表現力の育成～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>学習室：国語(生きる力をつける基礎となる学習であるため)</p> <p>1年生国語(「話す・聞く」の基礎を定着させることが大切な時期であるため)</p> <p>2年生国語(「話す・聞く」の基礎を定着させることが大切な時期であるため)</p> <p>3年生国語(「話す・聞く」の発展的な学習を行うために大切な時期であるため)</p> <p>3年生社会(地域素材の教材化に適した学習内容になっているため)</p> <p>4年生社会(地域素材の教材化に適した学習内容であり、課題別学習に適しているため)</p> <p>5年生国語(発展的な学習を行うとともに習熟度別を行うことが可能であるため)</p> <p>6年生社会(地域素材の教材化に適した内容であり、課題別学習が可能であると判断したため)</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

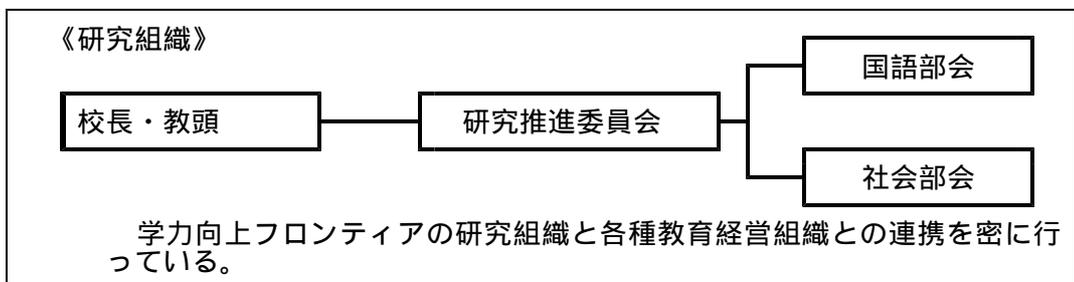
平成15年度	<p>共に学ぶ楽しさを味わわせる授業の創造 ～人間関係を豊かにする自己表現力の育成～</p> <p>【国語科】：「話す・聞く」領域での伝え合いの学習</p> <p>【社会科】：地域素材を取り入れた問題解決学習</p> <p>仮説 国語科の研究仮説 国語科の「話す・聞く」領域において、次の2つの手だてを取れば、子どもたちの伝え合う力を子どもたちに身につけさせるであろう。 基礎・基本の確実な定着や個に応じた課題を重視した指導方法の工夫を行う。 互いに表現のよさを味わえる交流場面の工夫を行う。</p> <p>仮説 社会科の研究仮説 社会科において、次の2つの手だてを取れば、子どもたちの基礎・基本の力が身につく、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 子どもたちの興味・関心を大事にしながら、地域素材の教材化を図り、追求的な活動(問題解決学習)を展開する。</p>
--------	---

	<p>個に応じたワークシートを活用して、互いのよさの交流の活性化を促す。</p> <p>研究内容・方法 研究内容 国語科、社会科における個に応じた指導、発展的な学習を開発する。 研究方法 理論研究、仮説の実証授業、研究協議会の開催。</p>
--	--

平成16年度	<p>確かな学力を身につけ、共に学ぶ楽しさを味わわせる授業の創造 ～人間関係を豊かにする自己表現力～</p> <p>【国語科】: 「読む」ことを通しての学習指導の工夫改善をする取り組み 【社会科】: 子どもたちの興味・関心をもとにした地域教材の開発</p> <p>仮説 国語科の研究仮説 国語科の「読む」ことを通して、以下の2つの手だてを取れば、子どもに基礎・基本の学習を発展的な学習に生かす学び方を工夫することができるであろう。 基礎・基本学習を発展的な学習に生かす学び方を工夫する。 日常的な評価を指導に生かすように工夫する。</p> <p>仮説 社会科の研究仮説 社会科において、次の2つの手だてを取れば、子どもたちに基礎・基本の力が身につく、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 子どもたちの興味・関心をもとにした地域教材の学習をめざして、「人・もの・こと」の活用を計画的に行う。 補助簿を用いての日々の評価活動を行い、評価を指導に生かす。</p> <p>研究内容・方法 研究内容 国語科、社会科における個に応じた指導、発展的な学習を開発する。 研究方法 理論研究、仮説の実証授業、研究協議会の開催。</p>
--------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>授業中、積極的に発表したり、話し合ったりする児童の姿が多く見受けられるようになってきた。</p> <p>児童が自分のペースで学習できることや自分に合ったコースを選ぶことで、学習に対する意欲が増してきた。</p> <p>2～6年の全学年の漢字テストにおいて、どの学年も8～9ポイント点数が上がった。</p> <p>学習意欲に関するアンケート結果によると、児童の学習に対する意欲・関心が学年平均8.5ポイント上がった</p> <p>個に応じたワークシートの活用や補充学習を要する児童に対する手だてを考えた授業づくりに取り組んだ。</p> <p>フロンティア教科(国語科、社会科)をはじめ、他の教科、総合的な学習の時間においても自己表現力を育てる場の設定が多く見受けられた。</p>

2. 今後の課題

児童の実態や学習する単元のねらいや内容に応じて、分割、T・T、コース別学習形態が望ましいかを十分に検討していくことが必要である。
本年度の実践をもとに年間指導計画を学習形態及び重点単元を明確にしたものに改善していくことが必要である。
児童の生活体験、学力実態を十分に把握して、国語科、社会科の特性を配慮した実践研究を推進していく。
目標に準拠した指導・評価を大切にした授業実践を進める。
日常的な個に応じたきめ細かな指導（音読、計算、漢字等）を、今後も全教職員で充実させていく。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学習実態調査を実施する。
新しい単元の学習に入る前に子どもたちの学力実態及び生活体験についての事前調査を行う。
日常的な計算、漢字テストを実施して、子どもたちの実態を把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 研究会、説明会、交流会の開催
平成15年 6月30日(月) 校内授業研究会 4年国語
平成15年 9月17日(水) 実践交流会 1年国語 3年社会
平成15年 10月20日(月) 実践交流会 3年国語 6年社会
平成15年 11月27日(木) 実践交流会 2年国語 4年社会 5年国語
(2) 成果の普及および方策
保護者及び地域住民に向けて、年に10回以上、学校を公開して、授業や学校行事での子どもたちの様子を見ていただいた。
参観後アンケートをとって、外部評価として役立てる。
各種研究会において、学力フロンティアの取り組みを発表する。
授業一覧表を作成し、近隣の小中学校へ配布し、希望に応じて、学習指導案等を配布する。
学力フロンティアの取り組みについて、ホームページで公開することについては検討中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無